

原発の二つの施設 (京都大学原子炉実験所、浜岡原子力館)を見学・学習!

福島第一原発事故以来、原発と原発がもたらす影響への関心が高まる中、6月13日、遠く離れた大阪と静岡の二つの原子力関係施設への見学に参加しました。一つは、新幹線関西地本として総勢27名で京都大学原子炉実験所（熊取）への見学。静岡県は御前崎市にある浜岡原子力館（中部電力）に足を運び学習しました。

特に京都大学の実験所見学には、関心を持つ方も多く他の一般団体含め大勢の見学者の参加がありました。

実験所施設では実際に「研究用原子炉炉体」建屋内部に入り医学、物理学等の研究用設備の説明を受け、続いて放射能廃棄物処理装置を見学しました。参加者からは福島原発事故後に問題となっている放射線値や廃棄物処理の問題についての質問が出され、教授や施設関係者の方から説明を受けました。

その後、「原子力の危険性」を警告しながら活動されている京都大学の小出教授から福島の現状を受け、福島の子供たちだけでも福島から避難させる必要があると悲惨な事故の現状が語られました。見学に参加した組合員からは、この半世紀の人間が電気が欲しいために（原発は平和利用だけでなく核の問題も含め）開発した原発から生成された今の放射性廃棄物が消え去るには100万年という途方もない時間がかかるとことなど原発の危険性を改めて感じた感想がありました。

また、同日3名の分会組合員が静岡県御前崎市にある浜岡原発に隣接する浜岡原子力館を見学しました。

展望台からパノラマで目の前に広がる浜岡原発の建屋を含めた全施設を見学し、さらに原子炉の模型（制御棒、燃料棒の仕組みなど）を見学、核燃料から核分裂反応の流れ、モックス燃料を使用するプルサーマル発電など学習しました。館内には原子炉を保護する厚さ161mmもの鉄の塊の原子炉格納容器、原子炉の厚さ2メートルのコンクリートが展示され安全性を強調されていましたが、参加した組合員からは福島原発事故では原子炉を覆っていた分厚い鉄もコンクリートも溶断したり破壊されてしまい、津波の想定も含め見せかけの安全神話について憤りの報告を受けました。

実際に、原子炉実験所や原子力博物館などに行って、自分の目で見てみると如何に原発の安全性がペテンだったか、より明らかになります。

私たちは、安全・平和な未来を希求するために、脱原発を訴えていきます！